



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

大熊町公民館訪問 (7/15)

課題 「大熊町の新たなコミュニティ創出のための生涯学習事業の在り方について」

復興の進捗に伴い、多様な人々が生活する大熊町では、現在、生涯学習の基盤づくりを進めています。その一方で「講座の参加者が固定化してしまう」「学びがコミュニティ形成やまちづくりにつながっているのか」といった悩みも生じるようになりました。

今回は、こうした課題を乗り越え、「学び」を町の活力へと変えていくためのヒントとなる大熊町の取組事例を紹介します。



今回は浪江町、双葉町さんから2名参加していただきました。ありがとうございました。

Good! 人と人をつなぎ、地域住民の「出番」を創出する公民館職員

子どもの「やりたい」に応えた地域学校協働活動

「学び舎 ゆめの森」で生まれた、子どもの「編み物がしたい!」という思い。それに寄り添い、公民館職員が地域の女性会で編み物が得意な方をコーディネートしました。



自己有用感



喜んでもらえてうれしい!

学び舎ゆめの森での高齢者大学×認定こども園交流

高齢者大学の学びの場を「学び舎ゆめの森」にすることで、認定こども園の子どもたちと高齢者による多世代交流を創出しています。

この2つの取組に共通する魅力は、公民館職員の「つなぎ」があることです。編み物を教える地域の方も、子どもたちを見守るシニア世代も、「自分の経験や存在が、誰かのために町のために、役に立っている」という自己有用感(生きがい)を育むことにつながっています。



学びのゴールを「個人の充実」から「地域社会への貢献・共創」へとシフトさせることが、持続可能な地域をつくるための大きな一歩となります。

行政任せの復興やまちづくりには限界があります。だからこそ、公民館という場を通じた「学びの還元」によって住民一人ひとりの「やりたい!」「できる!」が町に溢れ出せば、エネルギーに満ちた地域へと進化させていけるはずです。

「学んで楽しかった!」 ➡ 「この町のために何ができるだろう?」

生涯学習の本当の価値は、「学んで楽しかった」という個人の充実だけで終わらせないことにあります。一人ひとりの学びや得意が「地域社会への貢献・共創」へと広がったとき、住民は「受け手」からまちづくりの「主役」へと変わっていきます。私たちも、その芽を大切に育てる「伴走者」として、皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。

